

私の得意な教科の一つだ。小学校の時に同じクラスで中学校の今でも同じクラスの友人が、紗柳は小さい頃から計算が早くてクラスのみんなも驚いていたんだよ。と教えてくれて、私はうれしかつた。それでもあまり授業の時に手を上げなかつた私を先生が見ていて、保護者面談会の時は毎回のようになつて、と手を上げて、と言われた。それが二年間続き、私はあまりドイツ語の授業が好きではなくなつてきた。

【海外子女教育振興財団】

その時に祖父から届いた葉書にこのようないことが書いてあつた。三年前のことだつた。ドイツに二年間住んでいるということは、二歳の子供と同じくらい話せればいいんだよ。そんなに焦る必要はないから。そうか、と私は思つた。そんなに焦らなくていい、前のように楽しく勉強していけばいい、と思うようになった。それから少しずつ、授業で発言するようになった。

五年生になると成績が中学校の選択に影響

して行く。それは自分が行きたい学校の先生
 たちが五年生の二学期と六年生の一学期の成
 績を見て、受け入れるかどうか決めるからだ。
 英語の授業も、日本の中学一年生が習うレベ
 ルになつてきた。先生たちは、私になるべく
 良い学校に行きたいという気持ちを分かつて
 くれて、私が良い成績をもらえるように懸命
 に教えてくれた。ドイツは成績の良し悪しで
 行ける学校が決まってくる。私はクラスのス
 分の一くらいが行く「ギムナジウム」という

【海外子女教育振興財団】

他の中学校より入るのが難しい学校に入りた
 かつた。
 そして無事に、私の第一希望のギムナジウ
 ムに入る事ができた。もうそのころは普通
 に話す事ができて、仲良しの友人もたくさ
 んできた。
 中学校の入学式の日、私はとても緊張した。
 私の小学校からは五人同じ学校に通うこと
 になつた。それでもちやんと先生と話せるか、
 友達はできるのか、など不安いっぱいだった。

とドイツ語がたいが話せるようになった今もドイツ話の授業でうまくいかなかったとそう言つて、慰めてくれる。このようにして、だんだん現地の中学校にも慣れていった。しかし、自分の考えをたくさん発言しななければならぬ。道德の時間は、滅多に手を上げられぬ。先生と成績についての面談があつた。道德の先生はとても厳しい先生なので、私は余計にドキドキした。きつと、あなたは全然手を上げて発言しないから、悪い成績し

【海外子女教育振興財団】

かあげられませんか、と言われると思つた。だが、その考えは少し違つた。先生は、「あなたはまだそんな長くドイツに住んでいないでしょ。でもそんなにドイツ語ができなくても自信を持つて手を上げていいのよ。もし間違えて誰かがからかつたら、私は日本語という素晴らしい言葉も話せるのよ」と強気で言つていいのよ。と言つてくれた。うれしかつたし、先生がいつの間にか私のことをよく理解してくれてい

や北欧の国の言葉を考えてみたい。

最後に、私のために努力してくれた先生方
たちに感謝したい。そしてもちろん私の友達
もだ。恩返しができるために、良い成績を取
れるようになりたい。

〔海外子女教育振興財団〕